

2023.10.26. 木曜礼拝「主の日は近い」

エゼキエル 30 章

JD ファラグ牧師

一緒に祈りませんか？ 天のお父さま、主よ、私たちはただあなたの御前に参ります。主よ、私たちをあなたへの甘美な歌とさせてください。主よ、私たちはもうすぐ家(天)に帰ることを楽しみにしています。主よ、イスラエルで起きているすべてのことで、私たちは家(天)に近づいていることを実感しています。主よ、あなたの祝福に感謝します。イエスの御名によって祈ります。アーメン。それでは、ようこそ。ご着席ください。今夜、お越し下さり嬉しいです。今夜ここに来て嬉しですか？ 良かった、確認したかっただけです。オンラインで参加の皆さんも歓迎します。どんな夜になるかわかりますね？ 参加下さり嬉しいです。そうされたことで祝福されると信じてください。始める前に、簡単にお話しします。今週はずっとスティーブ・サントス牧師と話していました。ほとんど毎日話していますが今日も彼と話しました。今週はずっとスティーブ・サントス牧師と話していました。ほとんど毎日話していますが今日も彼と話しました。今週はずっとスティーブ・サントス牧師と話していました。ほとんど毎日話していますが今日も彼と話しました。実は、非常にワクワクすることです。主の御心なら、日曜日にもう少しお話しできることを願っていますが、今夜、皆さんにお願いしたいのは、祈ることです。神はこのすべてをご存じですが、ただ具体的に祈ってください。神は今、神にしかお出来になれないこととして、素晴らしい機会を開いておられるようだからです。ですから、非常にワクワクしますが、どうかお祈りください。知恵、導き、識別力、慎重さ、理解力、これらすべてのためにお祈りください。そう遠くない将来、良い報告ができることを願っています。ところで、私たちは更に車の事に取り組んでいます。トラックはもうすぐ納車できると思います。自閉症の娘を持つあるシングルマザーがいます。今、彼女のためにも車を用意しているところです。どうかお祈りください。実際、とてもうまくいっています。もちろん、私の計画通りには進みませんでした。私は自分の計画を神に委ねました。皆さんはこんなことはしないとしますが、私は余白を開けておくんです。そして、それを主に委ねます。「神よ、これを祝福してください。」神はご覧になり、「いや、わたしはこうしたくありません。わたしの方法で行いたい。なぜなら、わたしの道はあなたの道とは違い、もっと高いものだからです。」(イザヤ 55:9)

とにかく、私の問題は十分です。今夜は、「エゼキエル書 30 章の旅」です。1 章だけですが、その理由は生まれればわかると思います。1 章だけですが、その理由は生まれればわかると思います。祈りませんか？ 神の御言葉の中で共に過ごす時間を祝福して下さるよう、神に祈りましょう。よろしければ一緒に。愛する天の父よ、私たちはあなたにとっても感謝しています。あなたの御言葉で、私たちが共に過ごせる木曜日の夜に、心からあなたに感謝します。ただここに来て、心を落ち着かせ、意識を集中し、ストレスの多い生活の忙しさから離れ、ただそれらを遠ざけ、私たちの集中を妨げたり、邪魔したり、気が散ったりしないように、今夜ここにある御言葉の中で、あなたや、あなたが私たちのために用意されていることに集中させてください。これは私たちの時間です。私たちはこれを大切にしています。主よ、あなたもそうだと知っています。あなたは私たちが集中することを望んでおられます。あなたに集中します。主よ、あなたがなされるように、ただ語ってください。聖霊の静かな小さな声で、はっきりと語ってください。主よ、私たちの人生に語ってください。私たちの心に、私たちの人生における心の必要に語ってください。主よ、多くの人々が本当に多くのことを抱えています。今は、それらをすべて脇に置くことができる時間です。この礼拝堂(聖域)はまさにそうです。私たちのための聖域です。安全な場所であり、私たちがただ

ここにいて、聖霊が私たちの教師であり、導き手として教えてくださる場所です。イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。

それでは。最近は毎週、私は言葉を選んでいきます。皆さんには押し付けませんよ。皆さん、嬉しいでもんね。今夜、私たちの前にある章は...準備はいいですか？言いますよ？「痛切」ええ。なぜ、痛切か？なぜなら、今夜学ぶ章は、こんにちの私たちのために書かれたかもしれないからです。

「主の日がますます近づいている」この預言はエジプトに関するものですが、ある意味、その重要性が今、この世というエジプトにいる私たちに、さらに当てはまります。私たちがこれから目にする類似点、非常に多くの類似点があり、その中にはゾッとするようなものもあります。人類史の最後の日、最後の時であるこんにち、私たちが生きる世界というレンズを通して、これを見ることをお勧めします。主の日が近いからです。主の日とは何か、主の日とは何でないかを理解することが重要です。説明します。

ここで多くの人々がトラブルに巻き込まれます。特に「第二テサロニケ人への手紙」2章のような章に差し掛かるとなおさらです。彼らは主の日と携挙、あるいは再臨の区別をしません。言い換えれば、主の日は携挙ではありません。主の日は再臨ではありません。主の日とは、言い方は悪いですが、「裁きの日」です。その日、神の裁きが来ます。私たちは「その日は近い」と言います。そうですか？何の日ですか？

「裁きの日」これは神の裁きが来るとのこと。主の日、神の裁きは近い。私たちは1節からそれを目にします。準備はいいですか？ オッケイ。では、いきます。

一エゼキエル 30:1一

次のような主のことばが私にあった。

一エゼキエル 30:2一

「人の子よ、預言せよ。神である主はこう言われる。泣き叫べ。『ああ、その日』と。

嘆き、悲嘆、泣き叫び、悲しみ。

一エゼキエル 30:3一

その日は近い。主の日は近い。その日は暗雲の日、諸国（異邦人）の終わりの時だ。

その日は来ます。

一エゼキエル 30:4一

剣はエジプトに下る。…

適切だと思うので、補足的に付け加えると、聖書の類型論において、エジプトは常に世の型です。この章を通して学ぶとき、できる限り聖霊の助けによって、「エジプト」と読む時はいつも私たちの世界、この世のテンプレートに重ね合わせたレンズを通して見てください。その日はやって来ます。主の日は来ます。その時、エジプトに裁きが来ます。それは起こりました。そしてその日は、この世に訪れます。神の裁きは近づいています。これを聞いてください。

...エジプトで刺された者が倒れ、その富が奪われ、その基が破壊されるとき、クシュ（エチオピア）に戦慄が走る。

一エゼキエル 30:5一

クシュ、プテ、ルデ、あらゆる混血の民、クブ、そしてその同盟国の人々も、彼らとともに剣に倒れる。

ところで、これがまさに起こりました。理解してほしいのは...皆さんをバビロンに連れて行っていいですか？ 本当に少しだけ。少し旅をするだけです。戻ってきます。でも、エジプトにね。急がなくても...どうだろう。分かりませんが、私はイラクにいるよりも...そこにバビロンがありました、ご存じですね？

現代のイラク、バグダッドから 50 マイルほど離れたところです。それならイラクに行った方がマシだと思います。とにかく、話が逸れました。ちょっとバビロンに行ってみましょう。そこにエゼキエルがいるからです。彼はテルアビブと呼ばれる場所にいます。(イスラエルの)テルアビブではありません。バビロンのテルアビブにいます。この預言は、エジプト、ファラオに対して、この強大な帝国に対して預言し、語るために与えられました。「ポイントは何ですか？」私のポイントはこうです。これがどんなに馬鹿げたことだったか、想像できますか？ 理解せねばならないのは、この当時、エジプトはまだ「エジプト!!」だったということ。先週、エジプトが衰え、ナイル川が枯れ、民が散らされるという預言がありましたが、それはまだ起きていません。先週の 29 章に引き続き、今夜の 30 章でもそのことが少し語られます。この時点で、エゼキエルがこの預言を与えられたとき、人々は彼をこう見たでしょう。この表現をお許しください。「彼のチーズはクラッカーから滑り落ちた」(頭がおかしくなった) — (笑) —
良かった。笑ってくれてありがとう。こういうのはいくらでもあります。特に好きなのがこれです。誰かが私のことを、「私のチーズはクラッカーから滑り落ちた」と言ったので、実は好きじゃありません。そこで私は外に出て、カーズのクラッカーとチーズを買い、チーズがクラッカーに残っていることを確認しながら食べました。とにかく。人々はエゼキエルをそう見ていたはずですよ。

「おいおい、冗談じゃない。エジプト？エチオピア？まさか。エゼキエル、頼むよ。そんなこと絶対に起こらない。」聞き覚えがありませんか？ ここアメリカについて話しましょう。私たちはすぐにこのことも見ていきます。「いやいや、そんなこと起こらないよ。」起こらない？ 私の聖書にはそう書いています。「いやいや、ここはアメリカだ！」私たちはエジプトに戻りますからね。すぐにバビロンに戻りますが。もし、私がエジプトにいるなら、「我々はエジプトだ！そんなこと我々には起こらない。」エゼキエルはこう言います。「いや、実際に起こります。あなたは倒れ、神はあなたに敵対され、あなたの富はすべて取り上げられます。」つまりエジプトには富があったということです。ええ、まさにありました。「すべての基が破壊される。あなたの隣人たちや、あなたが取引し、交流するすべての人々は、あなたとともに、剣によってあなたとともに倒れる。」

—エゼキエル 30:6—

——主はこう言われる——エジプトを支える者は倒れ、…

6 節の最後の部分を読む必要があるのです、特に注目ください。

…その強い誇りは地に落ち、…

「強い誇り/権力のプライド」覚えておいてください。

…ミグドルからセベネに至るまでみな剣に倒れる——神である主のことば——。

では、少しだけ我慢していただけますか？「強い誇り/権力のプライドは地に落ち」さて、プライドは常に墮落に先立つことについては、前の章でも詳しく話しました。実際には、プライドは破滅に先立ち、傲慢な霊が墮落に先立ちます。(箴言 16:18)

そう、プライドがその理由、原因でした。しかし、一読しただけではわからない何かはここにはあります。「権力のプライド」これで具体性が出てきて、空白が埋まります。「あなたは何をそれほどまで誇りに思っているのか？ 何にそれほどプライドを持っているのか？」「私は自分の強さに誇りを持っている。」お～…お許しいただきたいのですが、イスラエルで起こっていること、イスラエルから聞こえてくること、そしてイスラエルに住んでいる人たちから聞くことを見ると、ほとんど 6 節のようです。主についての言及はありません。それは自分達の軍事力であり、強さであり、力です。彼らは反撃能力にプライドをか

けています。まったく言及されないのは、「いや、私たちは主を求め、断食し、祈り、悔い改め、多くの敵から救ってくださるよう主を仰ぐ必要がある。」これが、特にエゼキエル書の至るところに繰り返しかれている理由で、今夜も繰り返し目にするのは、「そのとき、彼らはわたしが主であることを知る。」今、あなたは神に称賛を捧げます。「それはあなたの権力、能力によらず、わたしの霊によって」と主は言われるからです。(ゼカリヤ 4:6)

あなたは自分の強さ、力、権力にすべての自信を置き、それに誇り、自慢している。それがあなたの誇り、力です。では、どうなると思いますか？ それは倒れます。それは壊れ、終わります。

ーエゼキエル 30:7ー

エジプトは荒れ果てた国々の間で荒れ果て、その町々は廃墟の町々の間で荒れ果てる。

繰り返しますが、これはとんでもないことです。「エゼキエル、エジプトのことを話しているんですよ？ お〜い？」そして、8節です。

ーエゼキエル 30:8ー

わたしがエジプトに火をつけ、これを助ける者たちがみな砕かれるとき、彼らは、わたしが主であることを知る。

わお…類似点が分かりますか？ 点と点を結べますか？ ペテロのことを考えます。神は、その日、主の日に、キリストを拒むこの世界を裁かれるとき、洪水によってではなく、火によるもので、文字通り溶けるほど熱くなります。(Ⅱペテロ 3:6-7)

溶けるほど。「わたしがその火をつける。わたしがその火を遣わす。あの日、火を放ったのはわたしだったとあなたは知ります。裁きの日に、わたしの裁きが下るとき、それはわたしであり、そのときあなたは、それがわたしであったことを知る。そのとき、あなたはわたしが主であることを知る。」

エゼキエル書 38 章までたどり着くと…ちなみに、あと 8 章です。慌てなくても、37 章はとてもかっこいいですから。36 章も、35 章、34 章、33 章、32 章、31 章もそうです。31 章はそうでもありませんが。でも、エゼキエル書 38 章は…明らかに、エゼキエル書 38 章は今、本当に話題の預言ですね？ 何のことか分かりますね？ 誰もが「エゼキエル 38 章、エゼキエル 38 章！」私はエゼキエル書 38 章までここにいる予定はありません。よく聞かれるんです…良かった、主を称えます。では、祈りで締めくくりましょうか？ 多くの議論があることは承知していますし、それについて断定的になるのは不適切かもしれませんが、私は終末論を、携挙前にエゼキエル書 38 章が成就することと合致させることができません。私はただ、どうしてもそうなるとは思えません。起こり得ないとは言いません。もしそうなら、ほ〜！ほ〜！ わお…！ オッケイ、すごい！ それから、私たちは行けますか？ その後、神が決定的な敗北を与えられるので、まったく違う世界になるからです。イスラエルに侵略してきた連合軍の敗北は決定的であり、…まず第一に、それはおそらく 1 日、24 時間のうちに起こり得ると考えられています。それほど迅速に。それは、まぎれもなく神がなされたとわかる方法です。そのため、エゼキエル書 38 章の終わりまで読むと…残念なことに、エゼキエル書 38 章に関しては、私も同罪だと思いますが、しかし、侵略、そして敗北を経て、さらに進み続ける必要があります。ちなみに、大地震も。この時期にイスラエルに行くのはお勧めできません。わお…。そして最後に、神は預言者エゼキエルを通してこう宣言されます。「そのとき、”すべての”国々は、わたしがそれを行ったことを知る。」「わたしがしたんだ！」これは緩い言い換えです。「わたしが主、神である。」他に方法はないからです。他に説明が付きません。冗談でしょう？ この巨大な国々、この大軍、この国々の連合軍が、ちっちゃなちっちゃなイスラエルを侵略するの

です。「いや、それはIDF（イスラエル国防軍）だよ。まったく、あの連中は、IDFには手を出さない方がいい。」IDFではありませんでした。「ああ、そう、あれはシン・ベツ（イスラエル総保安庁）であり、モサド（イスラエル諜報特務庁）だった。」そんなことはない。信じてください！「イスラエル軍の軍事力だ！」いいえ、違います。神がなされたことです。だから知っておいてほしいのは、すべてが終わったとき、それが神だったことがわかるということです。「ええ、私たちがしました」とでも言おうものなら、「いや、あなたのチーズはクラッカーから滑り落ちた（頭がおかしい）。だってあり得ないから。」という目で見られます。－（笑）－ わかりました、いつまでも言い続けませんよ。チーズとクラッカーが食べたくなりました？ 夕食を食べているといいですが。9節。始めの3語に注目してください。

－エゼキエル 30:9－

”その日”、わたしのもとから使者たちが船で出て行き、安穩としているクシュ人を脅かす。エジプトの日に、彼らの間に戦慄が走る。…

私はこれに下線を引きました。

…今、その日が来ようとしている。」

神がそう仰れば、それで決まりです。神に願うのは…、私はこの国のために語ります。私はこの国を非常に愛していますが、神以上ではありません。ここアメリカにいる私たちが冷静さを取り戻し、その日が近づいているという現実を目を覚ますことを神に願います。さらに一步踏み込みます。私が言いたいことはもうお分かりだと思います。その日は近いのではなく、ここにいます。アメリカだけでなく、世界中で起きていることを、今まで見たことがありますか？ アメリカについてだけ言うとしても、すでにここにあると思います。起きていることは異常です。私たちが今生きているこの世界を、誰が想像できたでしょう？ 冗談抜きで、「こんな日が来るわけない」と言う日が来ると思ったことがありますか？ 私はその日を目にしています。「こんなことが起こる日が来るとは考えたこともなかった。」でも、そうなっています。こんな日が来るとは思ってもみませんでした。でも、ここにいます。それは…、あ”あ…日曜日の「聖書預言・アップデート」のために取っておきます。

－エゼキエル 30:10－

神である主はこう言われる。「わたしはバビロンの王ネブカドネツアルによって、エジプトの富を終わらせる。」

おお、すごい…このことについても話す必要があるでしょう。言い換えると、先週の29章で、神がネブカドネツアルを雇い、ツロを滅ぼすために雇ったことに対する報酬を支払ったことを覚えていますか？ ツロは非常に賢明で、彼らはたくさん持っていた富をすべて持ち出し、それらを船に乗せて、最終的に町が占領される前にツロから運び出しました。そこでネブカドネツアルは、「ちょっと待ってくれ、私はこの仕事で報酬を得るはずだったのに。私はこれを続けてきた。私の仲間は今、ハゲている。」－（笑）－ 覚えていますか？ 私は忘れようとしても、忘れられません。この場にいなかった方のために言っておくと、これは先週の内容です。彼らの肩は、ツロの町を包囲し、占領するための足場を築くために、あらゆるものを運ぶため、生々しく擦れています。（エゼキエル 29:18）

何年もかかりました。「こんなに時間がかかるとも、こんなに費用がかかるとも思っていなかった。予算を大幅にオーバーしている。」神は「大丈夫です。わたしがあなたの面倒をみます。わたしはあなたがツロを奪うために要した費用の埋め合わせとして、エジプトの富を与える。あなたはわたしのために働いているのだから。わたしがあなたを雇った。わたしは誰にも借りをつくらない。ネブカドネツアル、あな

たはわたしのために働いているのだから、必ず報酬を与えよう。」

ところで、ネブカドネツアルは...彼の手によって、エジプトの大軍が捕らえられます。「またか、エゼキエル、いい加減にしろ。こんなことは馬鹿げている。エジプトはバビロンより遥かに強い。ネブカドネツアルがエジプトを奪うというのか？ それは天と地ほどの差がある。」

私たちが言うように、それはリンゴとリンゴの比較ですらありません。いや、それは起こります。やって来ます。その日はやって来ます。

—エゼキエル 30:11—

彼とその民、すなわち諸国の中で最も横暴な者たちが、…

彼らがやってくると聞いただけで、人々の心は恐れおののきました。これらは悪名高い国でした。彼らは酷く、恐ろしい者たちで、人々は恐れていました。

…諸国の中で最も横暴な者たちが、その地を滅ぼすために動員される。彼らは剣を抜いてエジプトを攻め、刺し殺された者でその地を満たす。

この詳細を見逃さないでください。これは興味深いです。エジプトの地は...あまり生々しくならないようにしますが、その死体は山積みとなり、彼らを殺すために恐ろしい国々がバビロンのネブカドネツアル王と共にやって来て、剣で殺される死者でこの地を満たします。

—エゼキエル 30:12—

わたしはナイル川を干上がらせ、…

待ってください、ナイル川？ 彼らは生命線であるナイル川から水を運ぶ支流を築きました。それが彼らの生きる糧であり、農作物に水を供給していました。彼らにとってはそれがすべてであり、だからこそ、それを崇拜しました。当時のナイル川は、まさに繁栄していたことを理解せねばなりません。「しかし、わたしは干上がらせる。」「ナイル川を干上がらせるのですか？ そんなこと不可能だ。」「いいえ、そうなります。今に見ていなさい。」

—エゼキエル 30:12—

わたしはナイル川を干上がらせ、その国を悪人どもの手に売り渡し、その国とそこにあるすべての物を他国人（エイリアン）の手によって荒れ果てさせる。…

「やっぱり！私は知ってたよ！ またあのエイリアンか。」では、手短かに言います。甘んじて聞いてください。「エイリアン」は、「他国人」の意味です。あなたの牧師はエイリアンだったと知っていましたか？ ええ、ちょっと待ってください、待ってくださいね。私たちがアメリカに移住したとき...合法的に、合法的にアメリカに移住しました。いいですね？ 私はエイリアンカードを渡されました。そう、私の写真入りの。私はエイリアンには見えませんでした。この土地、アメリカにとって私はエイリアンでした。私は他国人/エイリアンでした。こういう言い方をしたらどうでしょう？ 私たちはこの世にいますが、この世のものではなく、この世にとってエイリアンであることをご存じですか？ 言いすぎですか？ あなたは...あなたは他国人です。「その手によって、わたしはエジプトを、エジプトの地を、荒廃させる。わたしはそれを荒れ果てさせ、邪悪な者の手に売り渡す。侵入するエイリアン/他国人の手によって。」

…主であるわたしがこれを語る。」

なぜエゼキエルがこのように書くよう促されたことが重要なのか。「それは主である」「主のことば」「主はこう言われる」「主であるわたしが語る」それは主のことばだからです。主の御言葉だからです。こう言わせてください。主は御言葉をお与えになります。「わたしはわたしのことばをあなたに与え、これを

行う。」主はご自身のことばを破ることはお出来になりません。まるで、私たちがこう言う感じです。「明日の2時に行くことを約束します。あなたに約束します。」「私に約束してくれる?」「約束するよ。」そして、どうなりますか? 翌日の2時に現れません。しかし、もし神があなたに約束される(御言葉を与えて下さる)なら、「わたしが語った」「これは主の御言葉。」それで決まりです。では、13節。もうすぐです。調子はどうですか? 大丈夫? まだここに居られますね。いい兆候です。13節で、再び出てきます。

—エゼキエル 30:13—

神である主はこう言われる。(興味深いです)「わたしは偶像を滅ぼし、メンフィスから偽りの神々を取り除く。エジプトの地には、もう君主が立たなくなる。わたしはエジプトの地に恐れを臨ませる。

—エゼキエル 30:14—

わたしはパテロスを荒らし、ツォアンに火をつけ、テーベ(ノー)にさばきを下す。

これらは町の名前です。「ノー」「どこにお住まいですか?」「ノー」「いや、どこにお住まいですか?」「ノー!」「いや、どこにお住まいなんですか?」「ノー!!」ああ、まさにその通り! ありがとう、チャーリー。それ、大好きです。ちょうど考えていました。「誰が最初?」「どこに住んでいるの?」「ノー!」さらに酷くなります。

—エゼキエル 30:15—

わたしはエジプトの砦シンに...

いかがですか? 自分の運転免許証にシン(罪)在住と書いてあるなんて。—(笑)— どうですか? 私なら引っ越します。ノーに引っ越します。「ノー・シン(罪のない)」町だったら良かったのに。しかし、それは「シン(罪)」という町であり、

—エゼキエル 30:15—

わたしはエジプトの砦シンにわたしの憤りを注ぎ、テーベ(ノー)の群衆を絶ち滅ぼす。

—エゼキエル 30:16—

わたしはエジプトに火をつける。...

つまり、これは...

...シンは苦しみに悶え、...

それは色々な意味で...罪(シン)はそれ自体に報いがあります。「シンは苦しみに悶え、」私たちの罪のゆえの、不必要な痛みや苦しみ。

...テーベ(ノー)は砕かれ、そしてメンフィス(ノフ)は...

もう「ノー」とはいません。言いたいけど、言いません。

...テーベ(ノー)は砕かれ、

そしてメンフィス(ノフ)は(この言葉に注目下さい)「白昼(日々)」の敵に襲われる。

日々、毎週ではなく毎日。ある人の言い方が好きです。「人生とは、日々、毎日のこと」これが毎日起こることです。「休みはありますか?」「いいえ、毎日です。」「苦悩が毎日?」「そうです。」

—エゼキエル 30:17—

オンとピ・ベセテの若い男たちは剣に倒れ、その町々は捕らえられて行く。

—エゼキエル 30:18—

わたしがエジプトのくびきを砕き、(注目下さい)その「強い誇り(傲慢な強さ)」が絶たれるとき、タフパンヘスでは日は暗くなり、雲がそこをおおい、その娘たちは捕らえられて行く。

繰り返しますが、「傲慢な強さ」に注目していただかなければ、19 節に進むことは許されないと思います。それは自分の力に対する誇り、自分の強さに対する傲慢さと同義語に聞こえるからです。ダビデが、私の記憶が正しければ、確かそうだったと思いますが、実際に聖書の記述で記憶を常にリフレッシュすべきですね。神が軍隊の数に関する規律と裁きという点で、彼に選択肢を与えられたことは確かです。彼の助言者たちでさえ、「ダビデ、それはしてはならない。やってはならない。」と言ったことを思い出してください。しかし、彼はともかくやりました。彼は人数を数え、軍隊の数を数えました。(IIサムエル 24) なぜそんなことをしたのか？ それが彼の強さの象徴だったからです。私たちはこのように言います。

「数字には力がある。」そして、その数字に自信を置きます。結局のところ、数字に力があるからです。それに伴うのが傲慢さです。申し訳ありませんが、私はイスラエルにこれを見ます。すみません。高慢な傲慢さがあります。傲慢さがあります。イスラエルの強さ、軍事力。アメリカは...もうほとんど機能していません。アメリカの軍事力？ ご覧になりましたか...？ コマーシャルは見ないでください。それは...わお...！ 軽蔑しているわけではなく、私のことをご存知だと思いますが、最大限の敬意を払っています。私はいつも、軍に所属している人にはその奉仕に感謝しています。私が言っているのはそのことではなく、広い意味で、主ではなく自分の軍事力に自信を持ち始めるときのことです。私の強さ、私の力は主から来るものであり、私の数でもなく、軍事力でも、知力でも、資源でも、地位でも、何でもありません。違います、私の力は主にあります。パウロは「ピリピ人への手紙」4章13節でこう語っています。「私は私を強くしてくださるキリストを通して、どんなことでもできるのです。」主が私の力です。しかし、エジプトは自分たちの力に傲慢でした。だからこそ、エジプトにとってそれは雲に覆われるようなものであり、娘たちは捕虜となります。これには、文字通りの意味と比喩的な意味の両方があると信じる人もいます。

—エゼキエル 30:19—

わたしがエジプトにさばきを下すとき、(裁きの日↑です。そして、ここでもう一度↓出てきます。) 彼らは、わたしが主であることを知る。」

さて、20 節で角を曲がりますが、少し背景を説明したいと思います。これからすぐに、私の好きな言葉で言えば、別の「預言的タイムスタンプ」があり、具体的な月、日、その日の天候がわかります。つまり、非常に具体的です。「預言的タイムスタンプ」です。では、なぜ 20 節から始まるこの一節が重要になるのか？ なぜなら、エゼキエルがこの言葉を語るために与えられたこの時は、バビロンとカルデア人がエルサレムを包囲し、神殿を破壊し、ユダヤ人をバビロンに捕虜として連れて行き、第三の最後の包囲でついにエルサレムが陥落する 4ヶ月前だったからです。このタイムスタンプは、エルサレムの最終的な破壊の 4カ月前であることを語っています。なぜそれが重要なのか？ エジプトはまだ現役だったからです。どういう意味か？ 先週お話ししたように、エジプトにはまだ、ギリギリ 4ヶ月の猶予があり、エジプトがユダを助けに来る可能性がありました。だからこそ、私たちには別のこの預言的なタイムスタンプがあります。

—エゼキエル 30:20—

第十一年の第一の月の七日、...

(ウインドワード山側はにわか雨) ハワイのガイダンスすみません。— (笑) —
いつもウインドワード山側はにわか雨です。気づいたことがありますか？ なぜわざわざ？ とにかく、すみません。ただ、このタイムスタンプがいかに具体的かという点を表現しようとしただけです。「第一

の月の七日」というところまで読みました。

..**私に次のような**（ここでもう一度。これは主のことば、神のことばです）主のことばがあった。

—エゼキエル 30:21—

「人の子よ、（非常に興味深いです）**わたしはエジプトの王ファラオの片腕を砕いた。見よ。それは巻かれず、手当てをされず、包帯を当てて巻かれることなく、良くなって剣を取ることもできない。**」

何？ 分かりました、待ってください。なぜこの詳細が？ なぜ私はこれを知る必要があるのか？

「ユダよ、あなたはこのことを知る必要がある。あなたは肉の腕に寄りかかっているから。あなたはまだ肉の腕/エジプト/ファラオ/彼らがまだ自分たちを助けてくれる可能性に寄りかかっているから、わたしは彼の腕を折り、剣も握れないようにする。彼はそれを固定し、治し、強くするための補助具やギプスもつけれない。」

ところで、骨を折ると、折れたところがより丈夫になって治ることをご存知ですか？ それって、素晴らしくないですか？ 私たちは恐ろしいほどに素晴らしく造られました。これで説教ができます。ここからたくさん説教ができるでしょう。これについて短い説教をしてもいいですか？ 神はあなたを砕かれ、砕かれた部分を補強され、あなたは砕かれた部分がより強くなります。良かったでしょ？ さらにいくつもありますよ。心に残りますね？ 良かったです。ここで再び、「あなたはエジプトに目を向けている。あなたはまだ、ファラオに目を向けている。あなたはまだ知らないが、その日、裁きの日、滅ぼされる日、主の日まであと 4 カ月だ。まだエジプトに目を向け、まだファラオに目を向けるのか？ まだ肉の腕に頼っているのか？ わたしはその腕を折る。どうですか？ あなたは彼の腕に、剣を取ることを求めている。肉の腕に頼っているからだ。そこにあなたの強さがあり、そこにあなたの自信がある。あなたが求めているのはその人であって、わたしではない。では、わたしは彼の腕を砕く。」

22 節、見方によってはさらに良くも悪くもなります。あなたがファラオなら、さらに悪くなる。

—エゼキエル 30:22—

それゆえ、神である主はこう言われる。「わたしはエジプトの王ファラオに敵対し、丈夫な腕も砕かれた腕も、その両腕を砕く。…」

今、もう一本も砕かれています。深読みしすぎかもしれませんが、ここでユダは、「ほ～！」「主がファラオの腕を砕かれた。私たちはその腕に頼ることはできないが、まだ、腕は残っている。」神は、「わたしはもう一本の腕も砕かなければ。」

..**丈夫な腕も砕かれた腕も、その両腕を砕く。そして、その手から剣を落とす。たとえ彼がやろうとしても...**

第一に、ギプスをはめる時間ありません。治りません。彼の手には剣を持たせてみても、手から落ちてしまいます。力が残っていないから、どうやらそれがあなたの力だったようです。「わたしは肉の腕を、両腕を砕くことでその力を取り除きます。今度は脚を求めますか？ それは何もできません。だから、わたしは腕を砕きました。」

—エゼキエル 30:23—

わたしはエジプト人を諸国の間に散らし、国々に追いやる。

彼らは家にさえいません。あなたは彼らを見て、「ねえ、腕にギプスをはめよう、そうすれば彼らは...」

「いいえ、彼らはいなくなります。わたしは彼らを散らし、彼らを離散させます。」それがまさに、神がなさったことです。24 節。注目下さい。対照的です。神の御言葉について、私はこれが大好きです。主

はファラオの両腕を砕かれました。反対に、

—エゼキエル 30:24—

わたしはバビロンの王の腕を強くし、わたしの剣をその手に渡す。…

「あなたがファラオの手に握らせることができなかつたあの剣は、わたしがその両腕を砕いたからだ。わたしは、ファラオの剣よりもずっと優れたわたしの剣を、バビロンの王の手に握らせる。」

…しかし、ファラオの腕は砕く。(これは興味深い詳細です) 彼は刺された者がうめくように、バビロンの王の前でうめく。

なぜこれが興味深いのか？ なぜこの詳細が興味深いのか？ これがまさに起こったからです。この当時のファラオがネブカドネツアルによって殺されたという歴史的な考古学的文書があり、まさに神の御言葉とおりです。何度も繰り返していますが、これがさらに馬鹿げたことになっているのがわかりますか？ それでもエゼキエルは、エレミヤのように、彼以前の預言者たちのように、馬鹿にされ、あざけられ、嘲笑されるような不人気なメッセージを語ることに忠実でした。彼らは忠実に神の御言葉を語り、想像を絶することを預言しました。そして、まさにその通りになりました。私が大好きなのは、歴史学や考古学が、聖書的でも、クリスチャンでもなく、世俗的な人であっても、考古学的な発掘をし、何かを見つけるたびに、「この発掘で何を見つけたんだ？」彼らが何を見つけたか確認するためにどこへ向かうか知っていますか？ 聖書、聖書です！ もう一步踏み込んでいいですか？ モルモン書をご存じですか？ モルモン書に書かれていることで、考古学的に証明されたことは何もありません。「ニオファイトの書」と呼ぶ本、(初参入者・宗教新改宗者)ニオファイトのような人々がいたとい歴史的証拠は何もありません。誰かが考古学的な発掘をして、遺跡を見つけ、もちろん年代を測定します。ちなみにこれは冗談ではなく、「80億年と7年前です。」どうやって考え出したんでしょう？「私たちがそれを発見し、炭素年代測定をしたところ、80億年前のものでしたが、7年かかったので、80億年と7年です。」頼みますよ、マジで？ わお、わお...それにはもっと信仰が必要で... わお...！ もう一つだけいいですか？ 追加料金なしで。創造 対 進化について言えば、どちらが馬鹿げた話だと思いますか？ ビッグバン理論というのは、理論的には、神が「バン」と言われ... —(笑)— とにかく。私はこの例が大好きです。例えるなら、廃品置き場で爆発が起き、ボーイング 747 (大型ジェット旅客機) が完璧に稼働し、機能するようなもの。この例えを聞いたことがありますか？ それさえも控えめな表現、例えだと思います。いや、いや、いや、それで、私は何を言いたかったんでしょう？ さっぱりわからないけど、すぐに何か思いつきます。いや、実際に、これで何かを言おうとしていたんです。神は、このファラオ、この特定のファラオは、ネブカドネツアル王の前で致命傷を負わされ、うめきながら殺されると言われます。考古学的な根拠と証拠があり、まさにその通り起こりました。私たちが世界で、地球で、地球上で目にするものすべてが、聖書が 100% 正確であることを証明します。例外はありません。真実です。それが神の御言葉です。何かを見つけ、何かを行い、何かを信じ、それが神の御言葉と矛盾しているなら、誰が間違っていると思いますか？ なぜなら、それこそが他のすべての土台となる真実だからです。「エペソ人への手紙 6 章」にある霊的武具の「真理の帯」は、他の武具すべてをつなぎ合わせるものである、というのは興味深くないですか？「真理の帯」がなければ、すべてがカパカヒ (ハワイ語) / 偏ります。この言葉、正しく言えますか？ この言葉を使うのは久しぶりです。ええ、どうもありがとうございます。アラブ人がハワイ語をあんな風に言えるなんて。—(笑)— では、もう十分です。先に進み、この章を終わらせましょう。何人かは、「イエスよ、お願いします。この章を終わらせてください。」と言っていますね。

—エゼキエル 30:25—

わたしはバビロンの王の腕を強くし、ファラオの腕が垂れ下がるようにする。わたしがバビロンの王の手にわたしの剣を渡し、彼が手をエジプトの地に伸ばすとき、（再び出てきます。神は何度これを繰り返されたでしょう）**彼らは、わたしが主であることを知る。**

もう一度、この詳細には理由があります。その理由は、彼らは疑いなく、合理的な疑いではなく、疑いなく、どんな疑いをも超えて、これは神がなされたことだとわかったからです。神だけがお出来になるからです。何をなされたのか？ 神だけが剣を取り、バビロンの王の手に握らせ、ファラオの腕を砕き、バビロンを用いてエジプトを倒すことがおできになります。彼らはそれを見て...それが起こった時、それは起こったので、彼らはそれを見て言います。「神にしかできなかったことだ！」と。今、あなたは分かっています。どうして分かるんですか？ 他に方法がないからです。他に説明がつきません。「彼らは知るでしょう。それがわたしであったことを彼らに分からせます。わたしが彼の手に剣を握らせた者です。わたしがエジプトの地に対してその手を伸ばした者です。」最後に 26 節。

—エゼキエル 30:26—

わたしがエジプト人を諸国の間に散らし、国々に追いやる時、彼らは、わたしが主であることを知る。」

この章は終わります。私はこんな風に締めくくりたいです。実際、私たちが始めたような形で。この章を振り返って、当時のエジプトではなく、現在の世界にいる私たちに向けて書かれたものとして見ると、この章に書かれていることの様相が変わりませんか？ この世にいる私たちが自信を置き、力や助けを求め、誇りを持ち、そのために傲慢になるものはすべて、その日、神が最終的な決定を下されます。その日は近いだけでなく、その日はここにあると私は信じています。聖書の学びの前に、牧師同士で、ただ心を分かち合っていました。どう言えばいいでしょう。気をつけたいのは...どう言っても非難されますが、私たちはここから脱出するのだと私は本当に思います。私たちはここから出ます。私たちはここから出ると本当に信じます。だって、冗談でしょう？ 主の日は私たちに訪れる？ 私たちは連れ出され、携拳されます。日曜日にお話ししましたが、これで締めくくります。何人かは、「大丈夫ですか？ 少し早い締めくくりですが。」時計を見ないでください。私は大丈夫ですよ。—（笑）— お望みなら長引かせますが、これで終わりにします。

日曜日の聖書預言・アップデートで… 私のメモにはなかったのですが、私の胸の内にあり、ずっと心にあったことで、多くの人々は...聖書の学びの前に、何人かの訪問者とこのことについて話したところです。患難前携拳という健全な教理に、なぜ今、人々はどっちつかずになり始めたのか？ なぜ人々は、患難前携拳という健全な教理を、「今起こっていることはすべて患難中にあるはずだ」という名目で、考え直し、疑問視し、もしかしたら、あえて言えば、放棄し始めているのでしょうか。日曜日に私がコメントしたのは、聖霊が促しておられると信じたからです。今夜、もう一度繰り返し、まとめると、主の日はいかに近いのか、そして患難時代がいかに近いのか、つまり、今まさに始まろうとしています。すでに患難時代の中にいるように思えるのは、私たちが患難時代にそれほど近づいているからです。すでにその中にいるように感じます。それほど近いということです。主の日、神の裁き、地上の人々に訪れる患難。こんな感じです。「私たちはすでにその中にいるんだ。患難前携拳の話はここまでだ。ノートを引っ張り出してホコリを吹き払って、少し修正したほうがいいかもしれない。だって...。」私たちはこうしますね？ 私たちはそうしていませんが、そうしない方がいいですよ。私はあなたを見つけ出すぞ。—（笑）— 引き延ばせると言ったはずですよ。もう 1 分引っ張りますよ。彼らがしているのは、神の御言葉を世の中

の状況や出来事を通して解釈しているのであって、世の中で起きている出来事を神の御言葉を通して解釈していません。カパカヒ（偏る）の話ですれば、これもカパカヒですか？ この言葉を使うのはこれが最後です。私はこの言葉を台無しにしているようだから。でも、それはまったく逆です。真逆です。だから今、突然、神の御言葉を世界で起きていることのレンズを通して解釈します。そうではなく、神の御言葉を見て、神の御言葉のレンズを通して世界の出来事を解釈してください。そうするなら、それに忠実であれば、トラブルに巻き込まれることはなく、混乱することはありません。私は、患難前携拳を再考し、再検討し、そしてあえて言うなら、放棄する人々を気の毒に思います。どうやって、夜眠れるのですか？ 私が夜どうして眠れるかご存じですか？ 朝起きたら、携拳は今日かもしれないと知っているから、夜眠れるのです。それが朝、ベッドから起き上がる動機です。それを知っているからこそ、夜寝るときに枕に頭を乗せることができます。最後にもうひとつ。これは前にも話しましたが、大げさではありません。これは文字通りに、患難前携拳という祝福された希望と健全な教理がなかったら、私は気が狂ってしまいます。ええ、そうです。一拍手ー

デイビット（賛美リーダー）はどこですか？ ここに上がって来て、私を窮地から救ってください。ご起立ください。祈りで締めくくりましょう。ほら、そんなに悪くなかったですよ。私の希望を奪わないでください。患難時代を乗り越え、自分自身を証明しなければならないって？ わお... もっと時間をあげるよ、デイビット。私の言い訳です。

「このことばをもって互いに励まし合いなさい。」（Iテサロニケ 4:18）

「身を隠した方がいい。」身を隠す？ 私は上に行くんです。隠れません！ よし、これで終わりです。もう大丈夫。

お父さま、あなたに感謝します。ああ、主よ、ありがとうございます。ほろ苦いことですが、真実です。確かに逆説的です。そう、裁きは来ます。しかし、私たちはあなたの裁きに来る前に何が来るかを知っています。私たちが行くのです。主よ、この章をありがとうございます。少し厳しい部分もありますが、こんにちの私たちに非常に適切で、当てはまります。それは必ずやって来ることであり、今ここにあります。ですから、イエスよ、来て下さい。早く来て下さい！ マラナタ！ イエスの御名によって、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7